

東浜海岸の安全を祈願



海に向かってお祓いを行い、無事故を祈る(バーベキューハウスの前)

7月6日(日)甘露神社で「東浜海岸安全祈願祭」が行われ、観光協会、民宿関係の人たちが参列、今夏の海の安全を祈願しました。



崩落の危険にさらされている西脇道路

数箇所での崩落のおそれ

現在まで片側交互通行となっている町道陸上中央線(西脇付近)ですが、落石対策施設安全点検の結果、他の数箇所も崩落に繋がるおそれがあり、緊急的な措置が必要な段階にあることが判明しました。

このままでは通行の安全が確保できないため、早ければ8月1日より、陸上パーキング西寄から小羽尾三叉路までの区間を全面通行止めとすることになりました。今年度中に対処方法を検討、来年度以降から具体的な

な対策が開始される予定ですが、復旧までは数年間を要する見通しです。迂回路は国道178号バイパス、陸上トンネルを通る線を利用。町営バスも同様のルートに変更され「東浜駅」での折り返し運行となります。

『墓踊り』はコロナにより2度開催を見合わせましたが、全国の諸行事の動向を見て、陸友会は「今年はやりたい」との意向です。

『墓踊り』開催に意欲 陸友会

あゆむ

先日、伸び放題の庭木を切りに実家に出かけた。空家バンクに登録している実家、父が植えた木が高くそびえ、家に迫ろうとしている。高枝を根こそぎ切り取るのは無理だけど、自分の出来る範囲のことはやってみよう。作業後、昔母とよく歩いた道を散策してみた。餃子や卵などの無人の自動販売機の店があり驚いた。鳥取駅に近づくにつれ、街並みの賑わいが消えて静寂さが漂ってくる。ドーナツ化現象の歯止めがきかないのか。鳥取の街のシンボルの『大丸』は当初の『丸由』に戻そうだ。そんな中、今陸上では古民家を買って、セカンドハウスやリノベーションして暮らす人が増えてきた。雄大な海や山の大自然に囲まれた優雅な生活がある。コロナがふり返ってきて行動に二の足を踏むが、感染対策を万全に不屈の精神で前進あるのみだ。(よ)

聞きたい伝えたい ② 終戦の頃



中嶋 潔さん(89歳 1区)

たんだなあとと思った。尋常高等小学二年、今の中学一年生の頃だ。

戦時中は主に塩作りで勉強はほとんどしていなかった。自分より

朝から晩まで塩作り

年上の人は義勇軍に行く人もいたが、私たちは海水を撒いて濾して、その液を煮詰めて塩にする作業を朝から晩までやっていた。時々おやつに氷砂糖をもらうのがうれし

かった。でも塩は供出され、米の代わりに大豆飯や芋飯で空腹でたまらなかった。疎開して来る子も大勢いて、よけい食糧難だった。終戦後、以前岩美病院があった所に中学校ができ、やっと勉強できるようになった。岩美まで歩いて通っていた。その頃は東村役場が小羽尾にあった。戦争はしたらいいけん。今、ロシアとウクライナが戦争をしているが、まとまるなら話し合いでまめてほしいと思う。

(取材 中村洋子)

くがみ新聞

第162号
令和4年
8月1日
発行
陸上自治会

西脇道路全面通行止めに 町より東地区自治会に説明

8月の行事予定

- ・7日 クリーン作戦
- ・23日 ふれあいサロン
- ・1日 8日 22日 29日 玉手箱体操

7月の役員会で話し合ったこと (7月2日)

- ◆地区一斉掃除の報告
工事9業者、32名の支援
- ◆側溝蓋の補修について
- ◆護国神社寄付
95世帯 9,500円
社会福祉協議会会費
98世帯 98,000円
- ◆海水浴場開き 7月10日
- ◆令和4年度敬老会会員の確認と記念品について
- ◆慰霊塔補修の要否について
- ◆人権尊重社会鳥取県研究会
および岩美町人権教育講演会、岩美町人権教育講座への参加要請
- ◆墓踊りについて-継続検討
- ◆秋祭りについては盆明けに神社役員と協議
- ◆駅跨線橋の修繕作業の事
- ◆クリーン作戦 8月7日
- ◆岩美道路整備に伴う町道間藤線の通行規制について

臨海学校が開校



コロナ禍ではありますが、海水浴シーズン真っ只中です。東浜名物の臨海学校も開校。県立八頭高校の「臨海実習」が昨年に引き続き東浜で実施されました。担当の内田教諭から実習の様子と感想を寄せていただきました。

地元を愛することに繋がっている

八頭高校 体育類型主任
内田 八彰

今年も体育類型2年生の行事として、東浜の民宿を利用して、2泊3日の臨海実習を実施した。食事の良さは勿論のこと、風ヶ浜海水浴場や

(写真右上) 浜辺に全員集合して「臨海実習」の始まり
(写真下) 初めてのサップ体験実習



バーベキューハウスまで徒歩で移動でき、実習をスムーズに進めていく環境が整っている。

八頭町は山に囲まれた地域であること、現在は幼少期の遊びも変化し、同じ鳥取県に住んでいながら海で泳いだ経験が少ない生徒が多い。海という環境はプールに慣れている生徒にとつては恐怖心があり不安な面も多いが、風ヶ浜から中央までの遠泳は沖に見える島を自印とし、ゴール地点も見えていることから生徒にとっては目標が分かりやすく、初め

ての遠泳としては挑戦しやすい環境である。

昨年度からサップ体験も実習の中に取り入れ、山陰海岸ジオパークのリアス海岸を肌で感じ、鳥取県の自然の美しさを知ることにも生徒にとつては地元を愛することに繋がっている。サップの他にもサーフィンやシーカヤック等海の状況によって様々な活動ができるのも魅力の一つである。また、魚を捕まえることにも生徒は興味を持っているので、来年度以降も初めての体験を求めて訪れたい。

東浜海岸に希少植物の〈浪来草〉

ナミキソウ



花は唇形の青紫色で、基部で折れ曲がって立ち上がっている。

駅から下りて遊歩道を東へ少し歩いたところに、鳥取県の準絶滅危惧植物のナミキソウ(シソ科)が群落をなして咲いています。周りをテープで囲ってありますが、大切に保護していきましょう。(北川)

昔の情景

慰霊塔除幕式



いちばん左に遺族会会長(当時)の西谷守正氏、その右後ろが塔をデザインした山本兼文氏、中央はその息子さん、奥に施工した寺谷建設の寺谷兼治氏。遺族会の方々に交わり先々代の甘露神社宮司、先々代・先代の隣海院住職の姿も見られる。

グラウンド横の慰霊塔は、戦争で亡くなった東地区出身の方々の霊をなぐさめようと、東地区遺族会によって建立されました。

左は昭和34年4月12日に行われた慰霊塔除幕式の記念写真です。写真から、参列する方々の塔に寄せる想いの深さが感じられます。

遊歩道
スピノフ

私は昭和18年2月の生まれ。日本は昭和16年12月に真珠湾攻撃で米英国に宣戦布告して太平洋戦争に突入、はじめこそ戦争をあげていたが次第に

少勢となり、昭和18年ガダルカナル島敗退、19年サイパン島玉砕、米軍沖縄上陸、大都市空襲、広島・長崎原爆投下となつて昭和20年8月に終戦した。勝進というのは、決して格好いい名前ではなく、敗戦色が強い

戦争と名前

と思うようになった。

くなくなった頃に生まれて、「勝って進め」の意味だと分かった。

友だちの名前をみて、忠・剛・武・征・進・功・勝・将・勇など、戦争に関係したと思える名前が多い。中には紘一(八紘一宇 全世界を一

つの家のようにする)とか七生(七生報國 七度生まれ変わって国に忠誠を尽くす)という名の友もいた。

私は親に文句を言っているのではない。あの戦時下で、よくぞこの名前をつけてくれたと思っている。今、世界は大戦争に向かっているように思える。自分や友だちの名前を知るほどに、戦争のない世界を願うばかりである。

(10区 小山勝之進)

